

北海道胆振東部地震時の活動

2018年9月6日（木）3:07に発生した「北海道胆振東部地震」では、道内の数多くの方が災害に遭われました。地震発生後の北海道科学大学では、どのような活動をしたのかを簡単に紹介します。

北海道全域で停電が発生

コージェネレーションシステム（CGS）を導入しているため、本学のE棟（中央棟）は、電気の使用が可能でした。E棟を一般開放し、スマートフォン等の充電サービスを行いました。



食料・飲み水の物流が停止

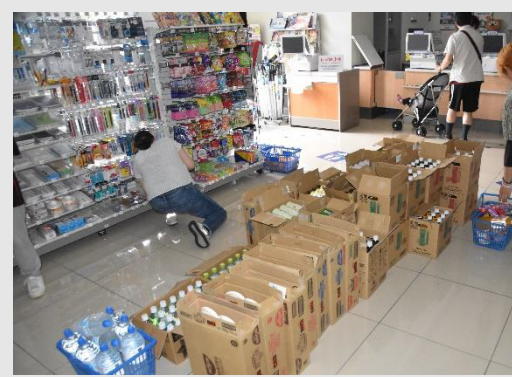
本学に備蓄している非常食の提供、学生食堂を担当しているシダックスによる炊き出し、ローソンでの販売を行いました。



非常食の配付



シダックスの炊き出し



ローソンでの販売

家にいることが不安

本学体育館は、2013年4月に札幌市から基幹避難所の指定を受けており、寝泊りが可能な避難施設として開放しました。



情報不足

E棟の大型スクリーンにテレビ放送を投影しました。テレビを直接、投影することができないため、タブレットをカメラ撮影し、スクリーンに投影しました。

